

亜全胃温存膵頭十二指腸切除術後の逆行性胆管炎症例と非胆管炎症例の比較検討および術後胆管炎の危険因子の解析

1. 研究の対象

2016年4月から2019年3月に当院で亜全胃温存膵頭十二指腸切除術を受けられた方

2. 研究目的・方法

【背景と目的】

亜全胃温存膵頭十二指腸切除術（SSPPD）後の胆管狭窄は、縫合不全などに起因した炎症性の癒痕狭窄や胆管の血流障害などが主な原因と考えられている合併症ですが、その発症頻度、時期、危険因子は明らかになっていません。早期に適切な治療が行われないと、敗血症などの極めて重篤な経過をたどることや肝内結石症を惹起して胆汁性肝硬変に移行することもあり、QOLを著しく損なう場合があります。今回、当院でのSSPPD術後逆行性胆管炎を来した症例について、その発症頻度、転帰、術後胆管炎の危険因子について検討します。

【対象と方法】

術後胆管炎発症群と発症しなかった群に分けて比較検討し、さらに術後胆管炎の危険因子を解析します。

【統計手法】

統計ソフトはJMP10を使用。連続変数に関してはWilcoxon検定、カテゴリ変数に関してはカイ二乗検定を行う。

【研究実施期間】

2019年9月2日～2020年4月

3. 研究に用いる試料・情報の種類

患者背景、手術関連因子、術後合併症、在院日数等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

熊本県熊本市南区近見 5-3-1 済生会熊本病院

096-351-8000（病院代表）

研究責任者：外科 白石 裕大

以上